

登別中学校 学校適正配置に関する地区別検討委員会

第8回教育環境部会 会議次第

日時 令和4年10月19日（水）18時00分

場所 登別市婦人センター講堂（2F）

1. 開会

2. 協議事項

(1) 「教育環境部会における議論のまとめ」の文案について

(2) 校区拡大（学校統合）に向けた基本的条件について

3. 閉会

教育環境部会における議論のまとめ（案）

①学校小規模化による『良い面』と『悪い面』の検証

登別中学校で見られる学校小規模化による『良い面』のうち、「教員の指導がきめ細かい」「教員の目が行き届きやすい」は、小規模校のメリットであるとはいえ、小規模校以外でも指導の工夫で補い得るものであると考える。

「生徒同士の関係が深まりやすい」「異なる学年間の交流が深まりやすい」についても、家庭的な雰囲気があればこそその良さではあるが、人間関係の固定化による弊害と表裏一体の側面があり、固定化による弊害の大きさと比較した場合には、優先されるべきものか慎重な検討が必要である。

また、「授業や部活動など様々な場面で活躍しやすい」「少人数なので意見が言いやすい」については、それにより培われる面もあるものと考えられるが、子どもの成長を考えれば、大きな集団であっても意見を発表する力、活躍できる強さを身につけられる環境をこそ整えるべきものとする。

次に、学校小規模化による『悪い面』のうち、「人間関係が固定化され、コミュニケーション能力を培うチャンスや様々な考え方に触れる機会が限られる」は、子どもの成長に大きく関わる事柄であり、その後の進路を考えても優先して解決すべき事項であるものとする。

「家庭的雰囲気の良さがある反面、仲違いした際に人間関係をリセットすることが難しい」は、小規模校の良さである「家庭的な環境」と表裏一体のものであるが、問題が生じた場合の影響を考えれば、悪い面の解消が優先されるべきものとする。

また、「人数が限られるため、学習面や運動面などで競争的環境に欠ける面がある」「部活動の選択肢が少ない（現在、登別中学校の部活動は3部）」については、子どもの可能性を伸ばすという意味でも解消しなければならない事項であり、「体育や音楽など集団の教育活動に支障が生じやすい」「教員配置数が少なく、（グループ学習など）多様な学習形態をとりにくい」についても、子どもの学習環境をより良いものとする観点から何らかの対策が必要とする。

このように、学校小規模化による『良い面』と『悪い面』を比較検証すると、『良い面』として挙げられた項目は、中規模以上の学校でも指導の工夫で補い得るものであるほか、小規模化による『悪い面』と表裏一体の側面があり、それとの比較では必ずしも優先度が高いとは言えないものである。また、現在の過ごしやすさを優先したメリットといった側面が強く、子どもの成長を考えた場合に

は逆にデメリットにもなり得る事項であるものとする。

対して、『悪い面』として挙げられた項目は、いずれも子どもの成長を考えると重大な事項で、『良い面』と表裏一体の側面があり、対策によりそれら『良い面』が失われるとしても、それに優先して解消の方策を講じなければならないものとする。

②学校小規模化による『悪い面』－弊害を解消するための方策について－

その上で、学校小規模化による『悪い面』＝弊害を解消するための方策であるが、本部会においては、小中一貫教育や虎杖浜地区との連携に関しても議論がなされた。

このうち、小中一貫教育（義務教育学校、併設型小（中）学校）については、学習内容の高度化や成長の早期化、中学校進学時の躓き、いわゆる中1ギャップへの対応などを目的としたものであり、仮に登別小学校と登別中学校の枠組みを解消し、9年間の義務教育学校を設置したとしても、1学年あたりの人数は変わらず、人間関係の固定化や競争環境の欠如、集団の教育活動や部活動の縮小といった、学校小規模化による弊害は解消されないことが確認された。

また、義務教育学校を設置し、虎杖浜地区から子どもを呼び込むことで学校規模を維持するというアイデアについても、当該方策を講じるためには、学校設置のための一部事務組合設置が必要であり、白老町教育委員会がどう考えるか、また虎杖浜地区住民の理解が得られるかは不明である。また、現在、虎杖浜小学校の全校児童は24人であり、仮に一部事務組合を組織し、登別地区と虎杖浜地区を校区とする義務教育学校を設置したとしても、学校小規模化の問題は解消されないことが確認された。

このため、登別中学校で見られる学校小規模化による弊害を解消するためには、近隣校である幌別中学校との統合を第一の選択肢にせざるを得ないものとする。

③教育環境部会としての結論

上記のとおり、現在、登別中学校で見られる学校小規模化による弊害の影響は、小規模化による良い面を考慮したとしても、それに優先して解消の方策を講じなければならないものであり、且つ現在既に小規模化が相当程度進んでいることを考えれば、できる限り早期に対策が講じられるべきである。

また、保護者との意見交換会でもあったとおり、保護者には今後のスケジュールが早期に示されることを望む声が多く、そうした意味でも、単に統合の方向性を示すだけでなく、統合の時期を明示する必要がある。

よって、教育環境部会としては、令和7年度を目途に、登別中学校と幌別中学校の校区を一つにする（統合する）ことが望ましいものとする。

なお、部会における議論では、登別中学校が統合となった場合の登別地区のまちづくりへの影響を指摘する声が複数聞かれた。議論の課程では、それらの意見にも十分配慮したが、教育環境の観点から、(部会としては)上記のとおりまとめたところである。まちづくりへの影響については、まちづくり部会で議論が進められており、今後は、地区別検討委員会本体においても、それらを含めた総合的な観点から議論がなされるものとする。

④統合の基本的条件

教育環境部会として、統合の方向性を結論づけた後に、(通学方法など)統合の基本的条件を議論する必要がある。「④統合の基本的条件」には、その検討結果を反映し、統合にあたって基本とすべき事項を示すことを想定する。

校区拡大（学校統合）に向けた 基本的条件について

令和4年10月19日
登別市教育委員会

学校統合に向けた基本的条件について

- ①通学方法・通学手段
- ②特色ある教育の取扱い
- ③制服の取扱い
- ④学校保管資料の取扱い
- ⑤その他

①通学方法・通学手段

①遠距離通学費補助

登下校に公共交通機関を利用し、交通費を教育委員会が補助

②スクールバス・スクールタクシー

教育委員会が徒歩通学困難地域から登下校用スクールバスを運行

③遠距離通学費補助とスクールバスの併用型

地域により遠距離通学費補助とスクールバスを併用

いずれにもメリットとデメリットが

最も望ましい方法を議論し、
その結果を基本的条件に位置付けてはどうか？

② 特色ある教育の取扱い

登別中学校における特色ある取組

- 総合学習（郷土学習）における「熊舞」の取組
- 「地獄まつり」への参加（熊舞、鬼みこし）
- 「わくわく広場」への参加（吹奏楽部）
- 登別温泉地区及び登別地区での「職業体験」 etc.

登別地区の特色を受け継ぐ取組

統合決定後に両校関係者で作る新たな委員会において、
取組の継承に関し協議することを条件にしてはどうか？

③制服の取扱い

仮に統合するとしても、

~~幌別中学校に「吸収」される~~

両校の「校区拡大（学校統合）」

統合決定後に両校関係者で作る新たな委員会において、制服の取扱いを協議することを条件にしてはどうか？

④ 学校保管資料の取扱い

学校保管資料

(登別中学校が保管してきた各種文書・資料)

- 学校沿革誌
- 指導要録
- 卒業生台帳
- 卒業アルバム
- PTA関連文書
- etc.

学校運営の観点から検討が必要
(資料の性質や保管スペースなど)

学校（教員）間の準備委員会で
協議することを条件にしてはどうか？

統合にあたって基本的条件 「通学方法・通学手段」

令和4年10月19日
登別市教育委員会

統合した場合の通学距離

仮に幌中との統合となれば

- | | |
|--------------|----------------------------------|
| ●登別中学校～幌別中学校 | 7.4 km |
| ●登別温泉～幌別中学校 | 11.8 km (大橋経由)
15.0 km (登中経由) |
| ●カルルス～幌別中学校 | 12.9 km (大橋経由)
20.8 km (登中経由) |

徒歩通学困難地域

何らかの交通手段を利用しての通学となる

徒歩通学困難地域への対応

①遠距離通学費補助

登下校に公共交通機関を利用し、交通費を教育委員会が補助

②スクールバス・スクールタクシー

教育委員会が徒歩通学困難地域から登下校用スクールバスを運行

③遠距離通学費補助とスクールバスの併用型

地域により遠距離通学費補助とスクールバスを併用



①遠距離通学費補助

【メリット】 ●乗車便に選択の幅があり、利便性が高い。

【デメリット】 ●降車後に徒歩を要し、通学時間が長くなる。

②スクールバス・スクールタクシー

【メリット】 ●学校まで運行され、通学時間の短縮となる。

【デメリット】 ●登下校時間に選択の幅が無い。

① 遠距離通学費補助（公共交通機関利用）

公共交通機関での登下校には条件整理が必要



- 現行の一部補助を全額補助とすることが必須
- 登下校とともに現行ダイヤで対応可能か要確認（対応不可の場合はダイヤ調整の必要あり）
- 輸送人員を想定し、便数を確保する必要あり
- 国が示す通学時間の目安は（公共交通機関利用の場合）概ね1時間以内

路線バス利用：運行便の確保 **【登校時】**

- 登校は8時10分まで
- 利用想定数：約80人 ※R3.4生徒数87人
(一斉輸送の場合はバス2台必要)
- 利用路線
 - パターン① 温泉～登別駅前～幌別本町～室蘭FT
 - パターン② 温泉～登別駅前～幌小前～若山営業所
- 最寄りバス停
 - パターン① 市役所入口（幌中まで徒歩17分）
 - パターン② 幌別小学校前（幌中まで徒歩13分）

路線バス利用：運行便の確保 **【登校時】**

- 最寄りバス停に午前7時45前後着が必須
- 全校生徒が一斉登校するため2便必要



(現行ダイヤ)

パターン①路線	カルルス	登別温泉	登別駅前	市役所入口
	(7:05)	(7:25)	(7:37)	(7:55)
パターン②路線	登別温泉	登別駅前	中央町1丁目	
	(7:28)	(7:40)	(7:56)	

 **現行ダイヤの微調整で対応可能**

路線バス利用：運行便の確保【下校時】

運行時間帯	便数	乗車数
① 13：20～14：20	2本	80人（特別：午前授業）
② 15：00～15：30	2本	80人（特別／通常：5時間授業）
③ 16：00～16：30	1本	30人（通常：6時間授業）
④ 18：00～18：30	1本	50人（通常：部活動終了後）

特別日課時はスクールバスで対応



運行時間帯	便数	乗車数
② 15：00～15：30	1本	30人（通常：5時間授業）
③ 16：00～16：30	1本	30人（通常：6時間授業）
④ 18：00～18：30	1本	50人（通常：部活動終了後）

路線バス利用：運行便の確保【下校時】

② 15 : 00～15 : 30	1本	30人	(通常 : 5限授業)
③ 16 : 00～16 : 30	1本	30人	(通常 : 6限授業)
④ 18 : 00～18 : 30	1本	50人	(通常 : 部活動終了後)

(現行ダイヤ)

②対応【ハターン①路線】	市役所入口	～ 登別駅前	～ 登別温泉
	(15 : 06)	(15 : 29)	(15 : 51)
③対応【ハターン①路線】	市役所入口	～ 登別駅前	～ 登別温泉
	(16 : 42)	(17 : 05)	(17 : 27)
④対応【ハターン②路線】	市役所入口	～ 登別駅前	～ 登別温泉～カルルス
	(17 : 56)	(18 : 19)	(18 : 42) (19 : 15)

→ 現行ダイヤの微調整で対応可能

路線バス利用の場合：幌別中学校までの通学時間

区 分	幌別中学校
	所要時間 (分)
カルルス	67
新登別	63
登別温泉	47
紅葉谷入口	44
中登別	42
ユートピア牧場	41
三愛病院前	40
登別東インター入口	39
汐見坂	37
マリンパーク通り	36
登別駅前	35

区 分	幌別中学校
	所要時間 (分)
登別	33
登別中学校前	33
登別小学校前	32
富浦	27
富浦駅前	27
西富浦	24

※市役所入口バス停降車後は徒歩
(バス停～幌中1.3 km/17分)

J R利用：運行便の確保 【登校時】


- 登校は8時10分まで
- 利用想定数：約80人 ※R3.4生徒数87人
- 利用路線
JR登別駅⇔JR幌別駅
- その他
幌別駅～幌別中学校：1.5km／20分
登校時：JR幌別駅で降車し幌別中学校まで徒歩
下校時：幌別中学校からJR幌別駅まで徒歩

J R利用：運行便の確保 【登校時】

- 最寄りバス停に午前7時45前後着が必須

(現行ダイヤ)

J R 登別駅 (7:34)	～	J R 幌別駅 (7:44)
J R 登別駅 (7:49)	～	J R 幌別駅 (7:58)

 現行ダイヤで対応可能

J R利用：運行便の確保【下校時】

運行時間帯	便数	乗車数
① 13：20～14：20	2本	80人（特別：午前授業）
② 15：00～15：30	2本	80人（特別／通常：5時間授業）
③ 16：00～16：30	1本	30人（通常：6時間授業）
④ 18：00～18：30	1本	50人（通常：部活動終了後）

特別日課時はスクールバスで対応



運行時間帯	便数	乗車数
② 15：00～15：30	1本	30人（通常：5時間授業）
③ 16：00～16：30	1本	30人（通常：6時間授業）
④ 18：00～18：30	1本	50人（通常：部活動終了後）

路線バス利用：運行便の確保【下校時】

② 15 : 00 ~ 15 : 30	1本	30人	(通常 : 5限授業)
③ 16 : 00 ~ 16 : 30	1本	30人	(通常 : 6限授業)
④ 18 : 00 ~ 18 : 30	1本	50人	(通常 : 部活動終了後)

(現行ダイヤ)

②対応	幌別駅 (15 : 45)	~	登別駅 (15 : 54)
③対応	幌別駅 (16 : 15)	~	登別駅 (16 : 24)
④対応	幌別駅 (18 : 16)	~	登別駅 (18 : 26)

 **現行ダイヤで対応可能**

路線バス利用の場合：幌別中学校までの通学時間

区 分	幌別中学校
	所要時間 (分)
カルルス	67
新登別	63
登別温泉	47
紅葉谷入口	44
中登別	42
ユートピア牧場	41
三愛病院前	40
登別東インター入口	39
汐見坂	37
マリンパーク通り	36
登別駅前	35

区 分	幌別中学校
	所要時間 (分)
登別	33
登別中学校前	33
登別小学校前	32
富浦	27
富浦駅前	27
西富浦	24

※市役所入口バス停降車後は徒歩
(バス停～幌中1.3 km/17分)

② スクールバス・スクールタクシー

【運行系統】

登別便と**カルルス・温泉便**の二系統で運行

(登別便) 中登別～登別～富浦～幌別中学校

(温泉・カルルス便) カルルス～新登別～登別温泉～幌別中学校

【運行経路】

道南バスの既存バス停を活用し運行

【運行時間】

登下校に合わせ運行（下校時は授業／部活動終了後に各便運行）

【その他】

休日の部活動等に関しては路線バス用の無料パスで対応

スクールバスの場合：幌別中学校までの通学時間

【登別地区】

区 分	幌別中学校
	所要時間（分）
中登別	27
ユートピア牧場	26
三愛病院前	25
登別東インター入口	24
汐見坂	22
マリンパーク通り	19
登別駅前	20
登別	18
登別中学校前	18
登別小学校前	17
富浦	12
富浦駅前	12
西富浦	12

【カルルス・温泉地区】

区 分	幌別中学校
	所要時間（分）
カルルス	36
新登別	32
温泉ターミナル	16
紅葉谷入口	13

※新登別大橋経由。カルルス温泉～新登別～温泉ターミナル～紅葉谷入口～幌別中学校の経路を想定。所要時間は路線バスの時刻表を参考に計算

③ 遠距離通学補助とスクールバスの併用型

① 遠距離通学費補助

登下校に公共交通機関を利用し、交通費の一部を教育委員会が補助

② スクールバス・スクールタクシー

教育委員会が徒歩通学困難地域から登下校用スクールバスを運行

登別地区

路線バスのダイヤが
比較的充実

遠距離通学費補助で対応

カルルス・温泉地区

温中統合に続き、
遠隔からの通学に

スクールバスで対応

①と②の併用型の場合：幌別中学校までの通学時間

【登別地区】

(遠距離通学費補助：路線バス利用)

区 分	幌別中学校
	所要時間 (分)
中登別	42
ユートピア牧場	41
三愛病院前	40
登別東インター入口	39
汐見坂	37
マリンパーク通り	36
登別駅前	35
登別	33
登別中学校前	33
登別小学校前	32
富浦	27
富浦駅前	27
西富浦	24

【カルルス・温泉地区】

(スクールバス・タクシー利用)

区 分	幌別中学校
	所要時間 (分)
カルルス	36
新登別	32
温泉ターミナル	16
紅葉谷入口	13

統合時の通学手段をどうするか？

①遠距離通学費補助

登下校に公共交通機関を利用し、交通費を教育委員会が補助

②スクールバス・スクールタクシー

教育委員会が徒歩通学困難地域から登下校用スクールバスを運行

③遠距離通学費補助とスクールバスの併用型

地域により遠距離通学費補助とスクールバスを併用

いずれにもメリットとデメリットが

部会でいずれの方法が良いかを議論